

保護者等からの事業所評価の集計結果

公表			
事業所名	てらびあぼけっと海老名さがみ野駅前教室		
公表日	2025年	3月	20日
利用児童数	2025年	2月	日 回収数 11/23枚

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	11					
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	9			2	・先生が子ども1人1人にしっかりついてくれるのが安心です。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	9			2	・可能であるなら2階の教室への階段に子供の高さにあった手すりが付くと嬉しいです。 ・バリアフリーという点で階段を上る必要がある点は気になりました。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	11				・部屋を大部屋と小部屋で分けており、複数ある小部屋を動物のマークを付けて分けていたり、配慮が行き届いていると感じます。 ・各ターム終了ごとに丁寧に清掃・消毒して頂いています。 ・本当に綺麗で、帰宅後に足を拭いても少しも汚れなくて感謝です。	
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等にに応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	11				・子供のことを深く理解して応対してくださっているのが安心です。 ・家族支援の時間では特に職員さんから療育に対する熱意や真剣さを感じます。	
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	11				・プログラムに相違なく、時間も適切に守られていると感じます。 ・家族支援の時間で説明を受けませんが納得できます。	
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	11				・丁寧に面談して頂いています。	
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	10			1	・子どもの様子に合わせて日々プログラムを考えてくださっています。 ・ウチは発達障害に加えて難聴もあり、家庭でも対応が難しい事もあるが、家族の精神面のサポートもしてくれて助かっています。	
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	11					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	11				・相談した内容を直ぐに活動に反映してくれている。	
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	3	1	2	5	・交流機会は無いが、幼稚園には行っているのですが、ここではその必要はないと思います。 ・ろう学校と児発のお友達としか交流する機会はない。	コチラに関してはプライベートな問題もありご意見が分かります。保護者様それぞれに確認をして「必要だ」と思っている方に対して提案してみます。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	11					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	11					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	10			1	・特に家族支援の時間で色々教えて頂いていますし、情報の共有もしっかりして下さいます。	
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	11				・息子の少しの変化にも敏感に気づけてもらえてありがたいです。	
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	11				・丁寧に面談して頂いています。	

	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	11				・はい。一言一言の発言すら思いやりを感じます。 ・親身になって相談に応じてくれる。	
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2	1	5	3	・保護者同士の交流会があると良いと感じました。 ・保護者交流会などがあると嬉しいです。	
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	11					
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	11					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	8			3		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	11					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	8			3		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	7			4		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	11				・避難訓練の様子をブログで見ました。 ・面談時に確認しました。相談室の壁に安全計画のポスターが貼ってありました。	
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	11				・そのような事例が無いから分からない。 ・以前に息子が軽い怪我をした時に、直ぐ電話連絡があって状況説明をしてくれた。	
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	11				・楽しみにしているので、それが答えだと思います。	
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	8	2		1	・「行きたくない」と言う事もありますが(保育園後なので帰りたくて)行くと毎回楽しんで帰ってきます。 ・とても楽しみにしています。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	11				・子供に寄り添い、尊重しつつ支援してくださっており、感謝しています。 ・支援計画や毎回のプログラムを丁寧に考えてくださってありがたいです。 ・大満足、とても助けられています。ありがとうございます。	

事業所における自己評価結果

公表		事業所名			
公表		てらびあぼけつと海老名さがみ野駅前教室			
チェック項目		はい	いいえ	2月	課題や改善すべき点
環境・ 体制 整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・お子様の利用は1日最大10名未満であること、1クール4名以上にはならないように調整している事でスペースは適切である。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・人員補充が必要だと感じるが、このアンケートの記載が4月以降だと人員補充が必要とは思えないと思う。それが児童発達支援の特徴だと思う。今いる人員で事足りる様に常考えて行動しています。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・建物の構造上で室内に段差があるが、声かけ等を心掛けてケガの無いように注意している。 ・お子様の特性は常に共有している。ホワイトボードに記載して共有する事もある。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・各クール終了時にはおもちゃや小道具の消毒、窓を開けての換気を行っている。 ・その日の、その時間の、利用されるお子様に応じて、表に出しているトランポリン等の大道具を方したりしている。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・セラピーに落ち着いて取り組める部屋の確保が出来ている。 ・クールダウン時などにも個室に入れるようにしている。 ・個室の広さが若干異なるので、子供の集中の具合によって部屋を使い分けられる。
業務 改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		・何かあればその都度話し合う時間を取っている。 ・共有記録書類には早めに目を通している。 ・欠勤した職員にも周知出来る様に、目標設定をした場合は議事録を紙面で残す様に改善する。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・改善を求められるような事があれば行う。 ・児童に合わせて保護者様の意向をくみ取り、セラピーに取り入れるよう工夫をしている。 ・ご質問や意見に対して、法改正で分かりにくい部分を尋ねられると明確に答えられないこともあり、勉強不足などがあるので、再度勉強をし直している。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・朝礼、終礼、詳細な部分は空コマを利用して職員全員で話し合う時間を設けている。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		・本部の職員さんが打ちで訪問されることがあり、その際に頂けるアドバイスを改善に繋げている。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・都度、何かあれば話し合っている。 ・空コマを利用して動画視聴にて研修を行っている。 ・空コマが取れない場合は研修を行う事が難しくなるが、それでも研修が行えるよう準備する事が必要で、二度手間にはなるが全員で研修を行えないなら、数回に別けて少人数で研修を行う。
適切 な 支 援 の 提 供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・子供に合わせてプログラムが組まれている。 ・保護者様とやり取りを行うセラピーノートで、現在行っているプログラムをお伝えしている。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		・アセスメントを取ったうえで今後何が必要なのかを考え、計画を作る事が出来ている。 ・作成後に計画に関する質問があるかの確認と、少なくとも1回アセスメントの更新。面談時に変化があるかなどを確認している。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・空コマを利用して会議などを通して意見の共有が出来ている。 ・原案作成後にカンファレンスを行い、セラピーファイルの一番前に入れて、その都度確認してもらい質問もしてもらっている。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・時に見直し、お子様の成長過程で計画とズレて来るとあるので、柔軟に対応してお子様に合わせて行く。 ・計画内容を達成した場合は次のステップへ進んでいる。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・日々の行動観察を行ったうえで、様々な方法を試すことが出来ている。 ・セラピーファイルに行動を必ず記録している。 ・個人ファイルでの行動記録、連絡帳、終礼などで申し送りを行っている。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		・それぞれ配慮したうえで作成している。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・グループで行うこと等は話し合っている。 ・ルールのある遊びなどは子供達と一緒に遊べるものを立案している。 ・職員全員で意見を言うようにしている。

18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別以外の事は担当者同士で話し合っている。</li> <li>・セラピーノートを確認して、前回の内容と同じにならないようにしている。</li> <li>・リズムワークが曲、動き共にパターン化して来ているので、新たな曲と動きを取り入れる。</li> <li>・子供の成長に合わせてその都度プログラムを構成するようにしている。</li> <li>・現状に満足せず、常に勉強で知識を増やしてセラピーに導入していく。</li> </ul>	
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年の法改正後から必ず入れている。</li> <li>・集団活動のバリエーションを増やして行きます。</li> <li>・就学が近い子は集団に少しずつ慣れることが出来るよう、集団生活を行う機会も作っている。</li> </ul>	
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝礼時に確認しあっている。</li> <li>・全体での内容告知をしていくことで、役割分担をしていければと考える。</li> <li>・職員不足の為、準備時間が足りない日がある。職員の補充が必要です。</li> </ul>	
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日終礼で報告を行い合い、どのようなセラピーが必要なのかなどの相談をして共有している。</li> <li>・終礼時に口頭で、その日の出来事を共有している。</li> </ul>	
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長くはないが具体的に的確な記録を残す様にしている。</li> <li>・セラピーファイルに記録を残し改善している。</li> </ul>	
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必ず半年に一度見直し改善している。</li> </ul>	
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までは児発管が参加していたが、実際にそのお子様を見ているセラピストが参加するように移行しようとしている最中。</li> <li>・担当者会議の内容を把握した上で、会議に出られる者を固定しないように改善していく。</li> </ul>	
25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者様からの依頼や、園側からの依頼、医療機関との連携は行っている。</li> <li>・密に連携を取り合って支援に生かしてるとは言えないが、連携が必要だと感じる時には連絡は取り合っている。</li> </ul>	
26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者様の希望で参加しており、依頼が無くても必要と感じるなら提案をしている。</li> <li>・訪問や電話等で様子を伺い共有している。</li> </ul>	
27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童発達支援なので小学校には行っていない。保護者様への提案を試みる。</li> <li>・直接的な連携が難しい場合は保護者様にも協力して頂き、子供たちが就学後に困らないように情報共有して行こうと思う。</li> </ul>
28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。			
29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外都研修に参加させているか。			
30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の主催しているものには参加している。</li> <li>・セラピーの様子を見てもらい、助言を頂いている。</li> </ul>	
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・全てのお子様で出来ているかと問われると出来ていないので、こちらから提案していく。</li> </ul>
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者様へは家族支援時に気になる事は共有している。</li> <li>・課題等を共有してその日の様子を伝え共有している。</li> <li>・出来る様になったことや今後の課題を伝えて行き、一緒に成長を見守れるようにしている。</li> </ul>	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加出来る研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者様との話し合いで支援を行っている。</li> <li>・保護者様の負担にならない程度に支援は行っている。</li> </ul>	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約時に説明している。</li> <li>・見学や契約時に、実際にセラピーを見て頂いての説明や、様子もお伝えしている。</li> </ul>	

保護者への説明等	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの福祉の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		・面談の時間を設けて寄り添うことが出来ている。 ・今一番お子様にとって行っていくべき事を考え、面談をし、家族支援の事も含めて作成している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		・ガイドラインがあり、その中の何処に当てはまるからこの計画となる、という説明を行っている。 ・担当者から説明をしたうえで同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・家族支援時には当然だが、モニタリング時にも細かく聞いている。 ・家族支援の時間を活用して支援を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○			・プライベートがあり、これに関しては「必要ない」と仰る保護者様もいらっしゃるのでは何とも言えないのが現状です。 ・同じ悩みを持った保護者様同士の関係を築く事は良い事だと思うので、まずは一職員として提案してみます。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		・申し入れがある時は、教室利用時にお子様をお連れしたときが多いので、そのクールのセラピーに影響が出ないなら相談室で話しをしている。	「・同じ悩みを持った保護者様同士の関係を築く事は良い事だと思うので、そのような機会が作れたら良いと思う」と書かれていたが「思う」では訂正を求められるので変更しました。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		・ブログやインスタなどのSNSで発信している。殆どの保護者様はご覧になっているので、伝わっていると思う。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		・鍵付きの書庫に保管している。 ・お見送り時、お迎え時、複数の保護者様が重なる時に、お子様に関する様々な情報を保護者様にお伝えする際、何らかのプライベートが他の方に特定されてしまう事がないように注意している。 ・使用したプリントの破棄は必ずシュレッダーで行い、ブログやインスタへの投稿に個人を特定するような情報が誤って入力してしまわないか、ダブルチェックを行っている。	
43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		・面談等を通じて行っている。		
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○			・行っていない。地域連携には課題を感じるので、第一歩を踏み出してみようと思う。 ・行っていないので、SNSを活用して事業について広めて行きます。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		・年に数回行っている。行えばインスタやブログで発信している。 ・地震や火災など、どのような災害なのかを想定したうえで、適切に対応できるように訓練を行っている。	「行っていない。地域連携には課題を感じる」で終了では訂正を求められるので変更しました。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		・年に数回行っている。行えばインスタやブログで発信している。 ・子どもたちがパニックにならないように取り組んでいる。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		・見学時等に事前に確認している。 ・該当者がいないので行っていない。	要はこの箇所の「課題や改善すべき点」は、「〇〇出来ない」や「〇〇だと思う」という文章の〆方では全て訂正を求められます。「〇〇出来ないから〇〇しようと考えて行動します」や「〇〇だと思うので、実現に向けて考えを誰誰に提案します」といった〆方ではないといけません。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		・食事介助をすることは無いが、アレルギーがあることは周知している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	○	・空コマを利用し、研修や訓練の実施などが出来ている。	・100%出来ているかと問われると出来ていない。研修の時間を作って解消して行きます。 ・計画はあるが職員全体での周知は出来ていないので、全員で把握して計画を実行する。（「計画はあるが職員全体での周知は出来ていない」だけでしたので付け加えました。）
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	○	・連絡先の確認などを行い、お子様の安全確保をしている。	・安全については説明しているが、安全計画については説明していないので、説明していく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討しているか。	○		・1人1人が用紙を持ち、直ぐに記入出来る様になっている。 ・ファイルに記録を残して事業所内で共有できるようにしている。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・年一研修を行っている。 ・空コマを利用して研修の機会を設けている。		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		・説明して了承して頂き記載している。		

## 事業所における自己評価総括表

公表	2025年 3月 20日		
○事業所名	てらびあぼけっと海老名さがみ野駅前教室		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 4日		2025年 2月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	2025年 1月 4日		2025年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 12日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	1名の職員が担当する1日の最大お子様数は3名、幼稚園や保育園に比べると物凄く少ないので、その分1名に対して観察できる分、濃い療育が提供出来る。	その日に担当した者だけでなく、職員全体でお子様を把握できるように終礼での申し送り、詳細には記録に残す。	「濃い療育」とは個人の知識・経験レベルに比例するので、本部が毎月企画開催している「てらびあぼLABO」へは可能な限り参加して知識を深め、個々のレベルの底上げを行う。
2	保護者の方とは家族支援の時間が取れるので、昨年以上にコミュニケーションが取れ信頼関係の構築に繋がっている事で、言いにくいことも教えてくれたり、何でも尋ねやすい環境は整っていると感じています。	職員と利用の保護者様との信頼関係は非常に大事だと思います。教室側に比がある問題で、例えば療育中にお子様にはケガをさせてしまった、もしくはケガをしてしまった場合も、全て包み隠さずお伝えし心から謝罪をする。	療育だ、てらびあぼだ、勉強と知識だ、ではなく、人としての成長で人間力が上がれば全てが向上すると考えますので、会社としてのルールや志しをPOPにし、全員が目につく箇所に貼り出す事で、自分が緩んだときに気持ちを引き締めるのに役立っている。
3	9時から仕事を開始し18時に着替えて帰宅。9時から18時の勤務時間で時間のメリハリを大事にしています。仕事とプライベートの充実から心の満足度の向上を高める。	基本的に残業禁止です。 去年初めに新たな福利厚生を導入。	福利厚生への追加検討。祝日休みの検討。
	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童発達支援の教室ならではの、就学のお子様の卒園で一気に利用のお子様が減り、1年を通して安定的な売上を作れないこと。	改善策ではなく、課題の要因はと聞かれると「児童発達支援だから」としか言いようがない。	・お子様の学年を可能な限り均等数で利用して頂く事で、偏った学年のたくさん卒園を防ぐ。 ・新年度の半年前からの営業活動。
2	利用予定のお子様の欠席率が2割以上と高いこと。	弊社職員が行うお子様の送り迎えが無い分、利用のお子様か、送り迎えを行う保護者様の、どちらかの体調やご都合が少しでも悪くなれば欠席となる。	そもそも小さなお子様は体調を崩すことは良くあることだし、保護者様にしても、病気を責めることはできないので、欠席する事を考えた対策として、突然空気が出たら、教室を利用する・しないは関係なく、気軽にお声がけ出来る保護者様との関係構築を目指す。我々も保護者様も「利用予定でもないのに電話連絡って、営業しまくりじゃない?」と言うものではなく「1名の空気が出たのでお子様の為を思って如何でしょうか?」という親切心によって自然に連絡が行える関係作り。
3	お子様との距離が近く、職員同士も距離が近いことで、感染症の拡大によって悪ければ教室を休園せざるを得ない状況もありうること。	小さなお子様は体調を崩す理由として、通っている園で他のお子様から病気をもらう事が多くの理由と思われる。そのお子様が症状が出る前に教室に通うなら、職員が病気をもらってしまう事も考えられます。そしてその職員が他の職員へ、他の職員が他の利用のお子様へ、病気を大きく拡大させてしまう恐れがあります。	感染症発生時の対応、感染症発生時の優先的取組事項、初期対応の概要、感染防止対策、平時の取り組み等々を盛り込んだ「感染症対策に係る業務継続計画」を、全職員が把握・徹底する。